

和 鶴岡 JCI NEWS

～想い溢れるJayceeの力で、地域に和を創造しよう～

contents

理事長●インタビュー企画	
理事長×広報委員会 ～和の創造完成に向けて～	1・2
7月例会報告・8月例会報告	3
8月特別事業・9月例会報告①	4
9月例会報告②・10月例会報告	5
11月例会 Information 料理研究家・食育研究家 吉原ひろこ氏講演	6

※1 JAYCEE…アクセントは頭に置き、ジェイシーと読む。青年会議所会員個人を表す。

2009
November
Vol. 4



理事長●インタビュー企画

和の創造完成に向けて

今年も残りあとわずかとなってまいりました。この広報誌も今回で4回目の発行を迎え今年の広報活動を終えます。そこで、今回の特集では、今年一年を総括する内容をお送りいたします。

今年一年、社団法人鶴岡青年会議所は「和」～想い溢れる Jaycee の力で、地域に和を創造しよう～というテーマのもと、各種セミナーやフォーラム、赤川花火大会、一斉清掃、献血、認知運動などの活動を続けてまいりました。まだ活動は残っておりますが、ここでこれまでの活動について2009年度社団法人鶴岡青年会議所理事長佐藤智信君と広報委員会によるインタビュー形式で総括し、12月の事業が残ってはおりますがこの一年を振り返るとともに、また次年度への期待を聞いていきたいと思います。

まだ今年度の事業が終わったわけではないのですが、まずは今まで理事長の職務、お疲れ様でした。最初にこれまでの率直な感想をお聞かせいただければと思います。

理事長 (以下：理) 昨年9月に理事長に就任する決意を固めてからスケジュールや必要経費についての覚悟はしていたのですが、実際に苦労したのはすべての会員に活躍の場を作るという点でした。

広報委員会 (以下：広) それは具体的には理事のことでしょか？

理 そうですね。ただ、理事長が直接委員長や副委員長に指示を出すことはないと思っています。副理事長、室長を通して自分の考えを委員長やメンバー全体に伝えなければならぬと思っていて、そのことはすごく難しいことでした。それから、第二回目の理事予定者会議の時でしたが、ある委員長が自分の思いを伝えたいあまり、気持ち先走っている様子を見たとき、自分は何にも染まっていない感じがして、いいなって思ったのですが、すべての理事メンバーにとってよく映ったとは限らず、人の個性をいかにして残したまま活動していくのが難しいと思ったもので

した。今年1年のテーマとして「和」を掲げていたのですが、それは同じ種類の人間を作って一つの方向に進むという意味ではなく、それぞれの個性を活かしたいろんな色が入った「和」を作りたいと思っていたので、そこがうまくいかなかったのは残念でした。ただ、若い理事メンバーがそれぞれにいい経験をしてくれて、成長してくれたのはとてもうれしく思いました。

理 理事長が考える、今年度の青年会議所として得ることのできた成果とはなんでしたか？

理 一番の成果は各事業の成功を通じて自分個人を、また青年会議所メンバー一人ひとりを成長させたことでした。このことを感じる事ができたのは最初に理事長としての課題としていたことでしたので満足しています。

広 人材の育成など、ある程度この成果は目標としていたわけですね。では逆に予想していなかった成果などはありますか？

理 自分はあえて会員大会など具体的にこうしたいとか指示は出して

Interview

和の創造完成に向けて



ませんでした。副理事長、室長、委員長に任せていたのですが、実行委員会メンバーそれぞれが理事長の考えを理解して期待していた以上にひとつにまとまっていたのがうれしかったです。メンバーがそれぞれの意思で動

いて、「まさかこんな演出があるとは」と驚かされてばかりでした。
広 まさに大成功といえますね。理事長としてここをもっと改善してほしかったとかはなかったということですね。

理 明らかに間違っていればそれは当然違ってると言いますが、基本的に理事長は1から10まですべて口を出すものではないと思っています。だから、実行委員会メンバーが自分たちで工夫して設営してくれたのですから、そういう点はなかったです。

広 他の事業はどうでしたでしょうか。

理 もちろん有りました。メンバー一人ひとりの成長を見ることができたのは自分の楽しみでした。失敗も次の事業に反映され成功に導かれていくところは特にうれしかったです。

今 年度もあとわずかとなっていますが、事業はまだ残っております。残りの事業に対する期待をお聞かせください。

理 「和」というテーマで活動してきましたが、個人の能力の和（足し算）という意味での「和」は確立されてきているのですが、「なごみ」という意味での「和」の確立にもっと期待したいです。どうしても公益性を重視した事業が多いためにわれわれが楽しむ事業が少なくなってきてしまっている中、こうした事業の割合が減ってしまうのですが、これも鶴岡青年会議所の活動にはなくてはならないものです。



広 そうですね。特に年末には会員間の交流を中心とした事業がありますのでここは期待できますね。

こ までは理事長という立場から青年会議所内部のお話をうかがってきたのですが、今度は個人的にこの地域について思うことをお聞かせください。

理 今まで気付かなかったのですが、理事長という立場で地域の他団体と交流する機会が増え、NPOなどの団体が多く活躍していることを知りました。こうした団体との連携や交流も今後は考えていくべきなのかも知れませんね。ただそのやり方については考慮する点も多く、難しいですけどね。



広 考慮する点とは具体的にどうのことですか？

理 青年会議所は公平中立の立場を取る団体ですので偏った思想、考えの事業には参加することができないということです。ただ、そんな中でもメンバーの誰かが他団体に所属することがあった時は、青年会議所のメンバーには公平中立のスタンスを崩すことなく、その中でノウハウを



活かして、是非中心を担う役割をはたしていただきたいですね。

広 では理事長は、メンバーが個人として地域の中に入ったとき、どのような役割をはたしていただきたいと考えますか

理 この地域には趣味の集まりや町内会など大小多くのコミュニティがあります。その中でも青年会議所で行ってきた事業の組み立て方や活動に対する考え方など、どんなところでも通用するレベルにあると思います。青年会議所内部だけではなく、むしろ積極的にそれらに参加してリーダーシップを発揮して、地域に貢献してほしいです。

2 010年度鶴岡青年会議所に期待することとかはありますか？

理 ぜひ挑戦してほしいことがあります。次年度理事長予定者の考えもあるとは思いますが、それは出席率100%例会の達成です。理事会に関しては100%出席理事会を一度達成することができました。今年は理事会の出席率が全体的に高く、こちらのほうも重ねて持続させていきたいです。それからもうひとつはアワードの受賞です。



広 アワードとはどのようなものでしょうか？

理 アワードとは全国各地の青年会議所の事業を対象に、優れた事業を表彰する制度のことです。今年は山形ブロックが中心となったやまがた協働運動の一環で行われたふるさとOMOIYARIプロジェクトが評価を受け、社団法人寒河江青年会議所が代表してアワードを受賞しました。来年もぜひアワードにエントリーして、挑戦してもらいたいです。これを目指すことで、来年度以降もメンバー内に「和」をもたらすことができると思います。「和」がなくなってしまうと鶴岡青年会議所の活動がバラバラになってしまうでしょう。ぜひこの「和」の精神も合わせて継続していただきたいと思います。

広 それではこの辺で今回のインタビュー企画を終わりたいと思います。理事長どうもありがとうございました。



次年度●理事長予定者

佐藤 正廣

Masahiro Sato

2010年度社団法人鶴岡青年会議所の第44代理事を拝命いたしました佐藤正廣です。

政治・経済の状況が混迷の度合いを深める中、「明るい豊かな社会」作りを目指す青年会議所は、その根ざす地域においてどのような役割を果たすべきなのか。次年度においては、我々は継承した伝統をより進化させた形で実現すべく、地域社会の先頭に立ち、率先して行動する団体としての活動を継続して参ると共に、具体的には公益社団法人格の取得申請、第二十回を迎える赤川火花記念大会の実施など地域に誇りと活性をもたらす多くの事業を予定しております。「実践躬行」の精神の基、まずは青年らしい行動から始めてまいります。

どうぞ、2010年度の一年間、宜しくお願い致します。

7月
July

例会報告

開催日 ● 7/12(日)
July Report

2009年度社団法人日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会 第42回 山形ブロック会員大会 鶴岡大会



▶担当委員会

会員大会支援委員会 ● 委員長

小林 範正

Norimasa Kobayashi

会員大会という例年にない事業であり、また、過去の大会主幹の経験をしたことのないメンバーばかりでの設営で、大会スローガン通り「自己進化への挑戦」となる事業でした。参加メンバー全てが何かしらの自己進化ができたと感じていますし、今回の挑戦が次に繋がるものであると感じています。委員会メンバーに心から感謝申し上げるとともに、鶴岡大会成功の為に尽力いただいた全メンバー、ブロックのメンバーに心から御礼申し上げます。

「自律したつよいやまがたの創造」を目指し、山形ブロック会員大会が鶴岡市を会場として開催されました。愛する郷土やまがたの発展の為、一人ひとりが考え行動するための気づきや学びを得て、市民意識変革運動に繋げることで共に地域を創っていくこと。会員同士の親睦のみならず、これも地域に対する大切な目的でした。



メインフォーラムでは講師に神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー兼総監督の平尾誠二氏の講演会を行いました。多くの地域の皆様からご参加をいただき、高く評価していただきました。また、会員向けに他団体との連携を推進し、United childrenを紹介する2つの分科会などを開催し、他地域からの会員の皆様との交流も果たすこともできました。



【一般参加者の声】平尾監督の話聞くのは初めてでしたが、選手との心の通じ合わせ方に共感を持ちました。やることは違っても同じような問題を抱えていて、ほめ方、やる気の出させ方など、お話は大変参考になりました。

8月
August

例会報告

開催日 ● 8/9(日)
August Report

第十九回 赤川花火大会 めざせ! 感動日本一!!



▶担当委員会

日本一花火委員会 ● 委員長

結城 俊一

Shunichi Yuki

第十九回赤川花火大会が皆様のご協力、ご支援のおかげで無事事故もなく終えることができました事、感謝申し上げます。メンバーに恵まれそして、アカハナ会SPのバックアップ本当に助けられました。皆様からこの一年で頂いたもの、今後の活動でゆっくりお返ししていきたいと考えております。今でも赤川の土手から河川敷を見渡すと、あの夜のカウントダウンの感動よみがえってきます。「感動日本一!!」ありがとうございました。

毎年恒例の赤川花火大会も今年で第十九回を迎えました。全国的に有名な花火大会が社会情勢により中止・縮小となる中、今大会は昨年よりも規模を拡大して開催されました。「市民の喜び、地域の誇り、安心快適な笑顔あふれる日本一の花火大会」という基本方針のもと、「羽根庄内の共通な広域的事業とし、地域の活性化を図る」という今回の目標も達成できたのではないかと思います。昨年までは参加いただいていた花火師の方々も新たに参加していただき、来場していただいた方々からも高い評価をいただきました。今後ともより皆様に愛される大会を目指してまいります。



【一般参加者の声】今年も期待を裏切らないとても素晴らしい花火でした。音と花火の融合、バランスも良く花火師のみなさんがんばっていると思います。日本一の花火大会になりますよう応援しています。

8月
August特別事業 開催日●8/17(月)
August Report衆院選挙公開討論会
ローカルマニフェストの推進

▶担当委員会

政策委員会●委員長

齋藤 亮 一

Ryouchi Saito

公開討論会の重要な点は、広く告知し、多くの方に立候補予定者の考え（マニフェスト）を聞いてもらい、投票率アップや選挙に対しての関心を高めることにあります。この度の公開討論会では集客の面でいまひとつであり、山形3区すべてを網羅することは難しいと思いますが、各LOMの力を合わせることができれば、もっと多くの聴衆を集めることができたのではと思います。これらの課題を踏まえ次の公開討論会に臨みたいと思います。



第45回衆議院選挙山形3区 公開討論会が庄内町文化創造館「響ホール」にて開催されました。

地域の皆様に有権者としての意識を高めていただく事、地域の抱える問題や課題点を再認識していただく事、地域のあり方について考える良い機会になる事を目的としたものでした。新庄、酒田、鶴岡、庄内中央の各4青年会議所が共催で「山形3区を考える会」実行委員会を立ち上げ、衆議院選挙山形3区の立候補予定者4名より、各分野への政策の違いを一問一答形式で4名の立候補予定者に討論して頂き、政策の違いを直接立候補予定者の言葉で聞き、地域住民の方々が理解する場を設けることができました。参加いただいた有権者の方々に衆議院選挙で誰に投票するかについて、参考していただくことができました。

9月
September例会報告① 開催日●9/17(木)
September Report

アニュアルレポートミーティング



▶担当委員会

事務渉外委員会●委員長

和田 伸 一

Shinichi Wada

今回の例会は、各委員長・出向者の皆様がJC運動に対する思いを紡ぎ、それが形になったものでした。またその中で、本年度の残りの事業や次年度の運動へ向けての課題が少なからず発表する側・それを聞く側双方で感じ取れたのではないのでしょうか。蓄積されたものを再び活用することを不得手としている単年度制という制度に対し、今回の事業がその障壁を幾許かでも取り払い円滑な運動展開の担い手として機能していくことを切に願っております。ご協力いただいた皆様に衷心より感謝を申し上げます。

(社)鶴岡青年会議所は地域や行政に少なからず必要とされ、頼りにされている団体です。それは、私たちの活動するこの地域に山積する様々な課題に対し、日々の活動を通じ、その課題に真摯に向き合う団体であるからであり、その活動



の成果を検証し、より良い形で後世に引き継いでいく必要があります。そこで9月17日、市内会場に於きまして「アニュアルレポートミーティング」を開催しました。今年度行われた活動を評価・検証し、今後の活動をより豊かに、より地域のためになるようにすることが目的でした。また、それを外部にも公表しています。今回は、より公平、公正な評価を得るために、山形ブロック協議会の協力のもと、レポートを作成いたしました。



9月
September例会報告② 開催日●9/25(金)
September Report鶴岡市長選挙公開討論会
市民参画による地域社会の創造

▶担当委員会

政策委員会●委員長

齋藤 亮 一
Ryouchi Saito

現職の勇退に伴う選挙戦ということもあり、市民の関心や意識は高く、メディアによる質問の一般公募では、多くの質問や意見を寄せていただきました。立候補予定者の政策や人柄を間近に伺うことができ、投票の判断材料とすることが出来たのではないかと思います。今後もこのような討論会を行っていきとは思いますが、鶴岡の未来を担うであろう若い世代の集客を如何に増やしていくのかをもう少し考えなければいけないのかもしれない。

9月第二例会 鶴岡市長選挙公開討論会が鶴岡市文化会館大ホールにて地域の皆様350名のご参加をいただき開催いたしました。

有権者の政治・行政に対する認知・関心度を高め、候補者が掲げるマニフェストへの理解を深める機会を提供し、投票率向上を図ることを目的として実施いたしました。

雇用対策、少子高齢化、観光、財政問題など、今後の市政に対して一問一答形式で3名の立候補予定者に討論して頂き、政策の違いを直接立候補予定者の言葉で聞き、地域住民の方々が理解する場を設けることができました。



【一般参加者の声】 今回の公開討論会を新聞で知り、立候補予定者の政策の違いを知りたいと思い参加しました。

候補者の生の声で政策を聞くことが出来た事は良かったが、もう少し顔が良く見えるようにしてほしい。また立候補予定者には漠然としたマニフェストではなく、確実性のある公約であって欲しいと思った。この様な企画を立てたJCに感謝します。

10月
October例会報告 開催日●10/11(日)
October Report森永卓郎氏講演会
地域経済活性化の秘訣を伝授

▶担当委員会

地域コミュニティ委員会●委員長

堀 愛彦
Naruhiko Hori

これからの活動の契機づくりをしていただきたいという想いで事業を行いました。講演全体を通して笑いが多く、参加者からは森永先生のお話はとても面白くわかりやすかったと意見を多数いただきうれしく思います。

初めての委員長で戸惑いが多かったですが、委員会メンバーの助けがあり無事例会を行う事が出来ました。また、普段経験できない色々な事が経験でき、私自身大きく成長できたと思います。支えていただいた皆様に感謝したいと思います。

鶴岡南高等学校にて、森永卓郎氏を講師としてお招きし、「経済構造の変化と地域経済の再生策」というテーマで講演を行いました。今この地域で持続的な発展を遂げることができる経済構造を形成することが必要とされている中、現在自分たちが置かれている地域経済について学び考える機会にするために開催し、地域の方々にも250名と多数ご参加いただきました。

内容は、この地域の問題点の取材を元に、森永氏より世界における経済問題の現状を分かりやすく説明していただきながら、地域における経済回復のための心構えや考え方など、経済の根本の改善点を提案していただき、参加者の方々の指標を示すものでした。



【一般参加者の声】 テレビで見ていた森永さんとはちょっと違って、お話の内容にとっても情熱を感じました。内容についてもとてもわかりやすく、今の経済状態がどのようにしてできてきたのか改めて理解することができました。少しですが、自分の将来にも希望がわいてきたように思います。

11月例会 Information

愛するからこそ、食べさせたい、学びたい ～食育の大切さ、親子で楽しく学ぼう～



青少年委員会 ● 委員長
叶野 孝志
Takashi Kanou

今回の事業は地域の方々参加型の大きな事業となります。この事業がなければ自分自身も「食育とは」と尋ねられてもすぐには答えられません。自分も含め参加者の中には家庭があるという方も多数いるはず。そのような方や多くの地域の方々に、この事業を通じて「食育」、「食事の大切さ」、「在来野菜とそのレシピ」というものを学んでもらい、安全で健康な生活を営んでいただければと思います。

【クッキング・ディスカッション パネリスト】

吉原ひろこ氏 マロン氏 本間光廣氏 鶴岡青年会議所副理事長

吉原ひろこ ● 料理研究家・食育研究家

教師経験を生かしてやさしく解き明かす、給食育やクッキングセラビー（料理を通しての心の交流法）～著書「子育てがラクになるクッキングセラビー（家の光協会編）」～が話題になっている。

全国の学校給食を食べ歩いて書き綴る、「吉原ひろこの学校給食たべ歩き」を朝日新聞・大阪版に2003年から連載。現在も継続中。

2008年から書き始めた「食べ残し」編にも注目が集まっている。

著書「吉原ひろこの学校給食たべ歩き1・2（サテマガビー・アイ社）」とともに、給食の楽しいエピソードが話題。

その他、雑誌等への執筆。食育、学校給食、学校と家庭の食などについての講演活動多数。

板井典夫（マロン） ● フードスタイリスト

大阪あべの辻調理師専門学校を首席で卒業。

料理研究家、インテリアスタイリストのアシスタントを経験。1983年、日本のフードスタイリスト第1号として独立。メディアを通して美味しい料理、料理の楽しさを提案し、第一線で活躍し続けている。2004年からは、マロンズPOT&PAN、マロンズスツーカーなど、調理器具の商品開発も始める。2005年夏には、『板井典夫という生き方』（さらだたまこ著・宙〈おおぞら〉出版）が出版され、フードスタイリスト第一人者となるまでの歩み、独自のこだわり、美意識を存分に語り、その存在を大きくアピール。2005年の年末にはNHK「きょうの料理」料理大賞の審査員を務めた。

現在はシェフでも、料理研究家でもない、食のエンターテイナーを目指してダイナミックに躍進中。

本間光廣 ● 株式会社本長 代表取締役

経歴
昭和19年（1944年）山形県鶴岡市大山生まれ 64歳
昭和38年（1963年）山形県立鶴岡南高等学校卒業
昭和43年（1968年）静岡大学 農学部卒
昭和45年（1970年）東洋食品工業短期大学 聴講生課程修了
同年 家業の本長商店 入店
昭和61年（1986年）法人成りし、株式会社 本長 代表取締役に就任
現在に至る。

現役職 山形県漬物協同組合 副理事長
スローフード山形 副理事長



人として最も基本的で重要なこの要素を、教育としてとらえたのが「食育」です。その「食育」について地域の方々と一緒に考えていくことが、地域の明るい未来の創造に必要不可欠ではないでしょうか。

鶴岡青年会議所では、安全で健康な毎日の生活のために、食事の大切さや地元食材について親子で学んでもらう場を設け、食物に恵まれ食事できることに感謝しながら、より多くの親と子供たちに次世代の「食育」の担い手となっていただきたいと願い、をこの食育事業「愛するからこそ、食べさせたい、学びたい～食育の大切さ、親子で楽しく学ぼう～」を開催します。

対象者は主に鶴岡市内と三川町の小学校の親子・先生・給食センター職員で地元食材を使ったレシピや子供の成長に大切な学校給食の必要性などを親子で一緒に学んでもらう企画もあります。ぜひご参加ください。

広報委員長 ● 木村修平

今年一年広報委員長として活動してまいりましたが、鶴岡青年会議所がどのような団体で、各事業の目的を地域により深く浸透させるように心がけて活動してまいりました。まだまだ地域には我々の活動について知らないという方も多く、自分の役割を全うできたとは言えませんが、この広報事業を通して学ぶことは多くありました。今後もこの経験を生かし、来年度以降も継続して地域の皆さんに青年会議所の活動を伝えていけるよう協力してまいりたいと思います。最後に、広報誌発行に際してご協力いただいた皆様に感謝いたします。今年1年、ありがとうございました。

副委員長 ● 上鉢功一

今年度広報委員会副委員長を一年間やらせていただきましたが、改めて（社）鶴岡青年会議所の事業の多さを実感しましたしその活動を地域住民の皆様様にタイムリーに情報発信する事の重要性和難しさを痛感しました。年度当初はホームページの更新も遅れ広報誌を閲覧した人をホームページに誘導できるような体制になるまで時間が掛かり事業計画当初の甘さが出てしまい皆様にご迷惑をおかけした何となく形にすることが出来ました。また更新して行くことの面白さも学びました。ぜひホームページもご覧になって下さい。

広報誌編集後記